



京王バス廃線問題特集

(ハイタウン-つつじヶ丘駅)



岡村しん市議とともに京王バス本社(府中市)にバス便廃止撤回を要請(2月27日)

京王バス路線(狛江ハイタウン折返場-つつじヶ丘駅南口「丘19」)の2月末での突然の路線廃止に驚かれた方も多かったと思います。
この路線廃止は、ハイタウンを含めた東野川3・4丁目および調布市民や世田谷区民(主にパークシティ成城)の一部および来訪者にも大きな影響を与えています。
告知からわずか一週間で、通勤、通院、買い物などの生活の「足」を失うことになった住民からは、困惑と怒りの声があがっています。



京王バス廃止影響について緊急調査(2月28日、ハイタウン東バス停)

バス「全便」に乗車し緊急調査
ハイタウン住民でもある私は京王バス本社(府中市)に2月27日に路線廃止撤回を共産党狛江市議団とともに申し入れるとともに、その影響と問題点を把握するため、27日と28日にわけて始発からほぼすべてのバス便に乗車し、利用者状況および利用者の声を聞く緊急調査を行いました。ここでは、その結果について報告します。また同時に、バス路線が廃止されたもとの、**今後の対策も急がれます。**
調査結果を踏まえ、いくつかの可能性を提案したいと考えています。ご意見、ご要望をお寄せください。
路線廃止の「理由」について
路線廃止の理由について京王バスは公式に住民への説明はおこなっていません(3月5日時点)。他方で住民からの要請を受けて市が説明を求めたところ、27日に京王バスから概略、①コロナ前と比べて8割程度の乗客しか戻っておらず赤字路線の整理に踏み切らざるを得なかった、②運転手不足、③労働条件の改善の課題もあり、路線を廃止することになった、との

説明があったそうです(狛江市道路交通課への聞き取り)。
路線廃止の影響
私は、路線廃止の影響について京王バスやから説明がなされる様子がないことから、緊急に独自の現地調査を行いました(別表に乗降者数集計)。その結果、以下の点があきらかになりました。
(裏面につづく)

京王バス(ハイタウン-つつじヶ丘駅)乗客数調査結果[簡略版]

出発時乗車人数	6:22	7:45	8:14	9:10	10:09	11:09	12:39	13:09	14:06	15:31	16:25	17:24	18:24	19:24	20:54	計
ハイタウン折返場	2	3	3	—	6	1	3	3	4	2	2	1	3	0	1	63
ハイタウン東	4	5	6	7	15	3	4	5	4	6	2	1	3	0	1	113
小足立橋	5	7	8	8	15	5	4	5	4	6	3	1	3	0	1	131
野川大橋	6	7	11	9	15	5	5	5	4	6	3	1	4	0	1	144
明照院前	6	11	12	13	15	7	4	5	4	6	3	1	4	0	1	158
つつじヶ丘駅南口(着)	10	22	20	21	21	8	6	10	8	3	7	1	4	0	1	222
つつじヶ丘駅南口	4	7	3	3	2	8	2	4	1	7	9	9	14	12	3	156
明照院前	1	4	2	2	1	5	2	4	1	6	6	6	6	3	3	97
野川大橋	1	2	1	1	1	—	2	4	1	6	6	6	6	2	3	83
小足立橋	1	2	1	1	1	—	1	2	1	4	2	5	4	2	2	62
ハイタウン東	1	2	1	0	1	—	1	2	1	3	1	4	1	2	0	47
ハイタウン折返場(着)	1	2	1	0	1	—	0	2	1	3	1	4	1	2	0	46

(23年3月1日 重国たけし)

力を合わせ暮らしの足を守りましょう

現地調査で明らかになったこと

●影響が大きいのは、つつじヶ丘駅を経由する他の路線がない「狛江ハイタウン折返場」「ハイタウン東」「小足立橋」「野川大橋」バス停の乗降利用者で、その数は一日当たりの総計(晴れの日)で100〜150人程度におよぶと推計され、雨の日は数倍になると予想される。

●路線廃止により、つつじヶ丘駅に行くには「明照院前」バス停まで歩く必要があるが、「ハイタウン折返場」から「明照院前」までは約750メートルあり時速4キロ弱で歩いて15分程度かかる。

●子どもをつつじヶ丘駅近くの保育所に連れていき出勤しているという方からは「明日からどうしようかと困っている」との声が聞かれた。買い物(オオゼキなど)や通院の「足」がなくなる高齢者や子ども連れのかたの困惑は大きい。

※新たにハイタウンを経由する「つつじヶ丘駅―調布駅」路線(丘14)が設けられたが、これまでの一日31回の発着がわずか2回になりというもので代替にはならない。

※調査結果詳細(数値、声)については、重国たけしのFBなどに掲載しています。お問い合わせいただければメール等でお送りします。

住民、狛江市などの動き

狛江ハイタウン(600戸、狛江市)、パークシティ成城(387戸、世田谷区)

では、マンション管理組合としてバス会社および行政機関への働きかけも行われています。「バス路線についての署名があるなら協力する」との声も聞かれます。狛江市は、ハイタウン管理組合などからの要請を受け、対応を検討しているそうです(道路交通課への聞き取り)。

今後の対応について

当初共産党市議団は、住民利益を第一に考える立場から、超党派の取り組みにすることが大切だと考えています。この方向を追求しながら、バス会社や関係行政機関に働きかけていきたいと考えています。

また、交通不便地域の解消にむけ、バス会社や狛江市が参加する「住民説明会・懇談会」を設けることも必要だと考えています。今後の具体的な対応については地域住民のみなさんの要望に沿って検討していくこととなりますが、現段階で考えられることについて、以下「重国だけの私案」として整理してみました。

路線復活を求めることについて

廃止されたバス路線復活は有効な対策の一つですが、全く同じ形での運行を求めることはハードルが高いのではないかと考えます。「減便」での対応できなかったのかという疑問はあり、廃止の判断について説明を求めたいと考えます。

代替手段についての「私案」

代替手段としては、以下などが検討対

象となるのではないのでしょうか。

- ①新設されたハイタウンを経由する「つつじヶ丘―調布」(丘14)路線を大幅に増便する(1時間に1本など)
- ②京王バスに限らず「明照院前」を通る路線バスについて「ハイタウン折返場」経由便を設ける
- ③こまバスの運行ルートに「ハイタウン折返場」経由のルートをつくる
- ④「ハイタウン折返場」から「覚東」や「明照院前」を往復するなんらかの公共交通機関(グリーン・スロー・モビリティなど)の整備を早急に行う

これらを、住民ニーズをふまえて具体化することが必要と考えます。そのためにもまず、バス会社および狛江市が「住民の足の確保」という要求に向き合う立場を明確に持つことが不可欠です。

重国たけしと日本共産党狛江市議団は、住民のみなさんとともに力を合わせて、暮らしの足の確保に引き続き全力で取り組みます。ご意見やご要望などお寄せください。

